

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,6 SUGO GT 300Km



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

9月15日 | 天候:雨/晴れ | 気温:23度 | コース:スポーツランドSUGO | 路面温度:25度(ドライ)



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

Qualifying Day Summary

シーズン終盤へ突入するSUPER GT第6戦のスポーツランドSUGOラウンド宮田選手は新たに採用されたグループ分けの予選Q1を果敢なアタックで突破予選Q2では吉本選手が、最大限のパフォーマンス引き出し9位を獲得。

Qualifying Day

今シリーズで最長の800マイルレースとなった第5戦の富士スピードウェイラウンド。ブレーキトラブルによってリタイヤを喫してしまったSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、その後スポーツランドSUGOとオートポリスで実施された、タイヤメーカーによるテストに参加。2回のテストでシーズン終盤戦へ向けての戦略や、これまでの5戦で挙げられた課題の克服を行なった。



このように前戦から約1ヶ月のインバーバルで行なわれた2回のテストでセットアップを煮詰め、シーズンが終盤戦へと突入する「2018 AUTOBACS SUPER GT Round.6 SUGO GT 300km RACE」に挑んだ。

第6戦のスポーツランドSUGOラウンドは、9月15日(土)、16日(日)の二日間に渡ってスケジュールが組まれていて、4日には公式練習と予選、5日には300kmの決勝レースが実施される。

15日は、まず9時から10時45分までの1時間45分に掛けて公式練習が行なわれた。吉本大樹選手が乗り込んだSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、マシンとコースコンディションを確認するためにコースインした後ピットイン。

Qualifying Day

その後は、セットアップを変更するために再びピットに入ったが、順調に走行を重ねる。吉本選手は約1時間の走行を終えると、宮田莉朋選手にドライバーチェンジ。このころからサーキットに雨が降り出す。スリックタイヤで走行を始めた宮田選手だが、途中で雨量が増えたためレインタイヤに交換する。ウェットコンディションでの状況を確認しつつ周回を重ねて、10時30分から10分間に渡って行なわれGT300クラスの専有走行も宮田選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握った。



結果として吉本選手が17周、宮田選手が23週の計40周を走行。15周目に吉本選手が記録した1分19秒920がベストタイムで、公式練習は10番手というリザルトとなった。

<予選>

午前中の公式練習ではウェットコンディションに見舞われたがお昼を過ぎると雨は止むやみ、次第にコースは乾いていく。GT300クラスの予選が始まるころには、ほぼドライコンディションとなり全車がスリックタイヤでアタックを実施する。

そして、今シーズンから予選アタック中に混雑が予想されるコース全長の短いサーキットでは、予選Q1に出走するマシンが2組に別けられて争うという規則が追加された。この新たな規則が、スポーツランドSUGOの予選で初めて適用されることとなった。GT300クラスの28台は14台ずつに別けられ、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は1組目となるグループAに振り分けられた。予選Q1を担当することになったのは宮田選手で、予選Q1のグループAは予定通りの14時にスタート。

コースオープンとともに走行を始めた宮田選手は、インラップから3周に渡ってコンディション確認とタイヤのウォームアップを行なう。そして4周目からアタックを開始し、まずは1分22秒台をマーク。翌周には1分19秒452のベストタイムを記録して、予選Q1を6番手のタイムで突破した。

続く予選Q2は、GT300クラスのBグループとGT500クラスの予選Q1で赤旗による中断によって予定より36分遅れの15時26分にスタートした。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ吉本選手は、2周に渡ってウォームアップを行ない3周目からアタックを開始。まずは1分21秒705を記録し、4周目はこの時点でセクターベストとなるタイムを連発し1分18秒949をマークする。これ以上のタイムアップは難しいと考えた吉本選手はこの周でアタックを終え、結果として9位で予選Q2を終えることとなった。

高速コーナーの多いスポーツランドSUGOは、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3との相性が良いコースとなる。決勝レースは荒れた展開になることも多いので、確実に走り切り表彰台を目指すことになる。

Team Comment



Director : 飯田 章

前戦から1ヶ月のインターバルがあり、その間に菅生とオートポリスでテストを行ないました。これまでの課題となってきたことを洗い出して、終盤戦を戦い抜く戦略を立てました。午前中の公式練習は、ドライからウエットにコンディションが変わり色々なデータが取れました。菅生はRC F GT3が得意としているサーキットなので予選ではもう少し前に出たかったのですが、ライバル勢も速いので9位は悪くない結果です。明日の決勝レースは天候も含めて荒れる可能性があるため、どんな状況でも対応できるようにして上位を目指します。



Driver : 吉本 大樹

公式練習は途中で雨が降ってきたために、想定していたメニューを消化できませんでしたが、また、クリアラップが取れなかったことを考えるとタイムとしては良かったと思います。予選はQ1を宮田選手が担当しました。公式練習とコンディションが変わってドライとなりましたが、その中でも満足できるアタックでQ1を突破してくれました。宮田選手のフィードバックをもとにして、空力のセットアップを変更して予選Q2に挑みました。変更を加えたことは結果に現われませんでした。挑戦したことなので悔いはないです。明日は9番手からのスタートですが得意なコースなので、チーム一丸となった表彰台を目指していきます。



Driver : 宮田 莉朋

公式練習は、ドライからウエットに変わるときにステアリングを握りました。スリックタイヤが使える限界なども見られたので、良いデータが取れたと思います。予選Q1は路面がドライとなってニュータイヤを履くことも、菅生では初めてでした。ドライビングはミスなかったのですが、クリアラップを取るのに時間を要したのが悔やまれます。それでも予選Q1を突破できたので、役割は果たせたはず。9位という結果は悪くないですし、菅生はコースとの相性が良いと聞いているので、少しでも多くのポイントを獲得していきたいです。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**

96



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

Qualifying Day Summary

ドライからウエットコンディションとなった公式練習では
3番手のタイムをマークして好調さを見せたK-tunes RC F GT3
しかし、予選Q1はコースコンディションに合わせ切れず24位で終える。

Qualifying Day

今シーズン最長の 800 マイルレースとなった 8 月第
1 週目の富士スピードウェイラウンドから、約 1 ヶ月
のインターバルを経て「2018 AUTOBACS SUPER
GT Round6 SUGO GT 300km RACE」が、宮城県の
スポーツランド SUGO で開催された。

前戦は、17 番手グリッドから粘り強く長丁場の決
勝レースを戦い抜き 10 位でフィニッシュしてポイン
トを獲得した。しかし K-tunes Racing LM corsa は、
第 3 戦の初優勝からポイントは重ねているものの上位



への進出は果たせない状況となっている。第 6 戦の舞台となるスポーツランド SUGO は低速コーナー
が少なく、K-tunes RC F GT3 が得意とする高速コーナーが多いレイアウト。そのため、3 戦ぶり
の上位進出はもちろん表彰台を獲得できる可能性もあるコースと目論んでいた。

そんな第 6 戦のスポーツランド SUGO ラウンドのスケジュールは、9 月 15 日（土）に公式練習と
予選、16 日（日）に 300km の決勝レースが予定される。15 日の 9 時から 1 時間 45 分に渡って
行なわれた公式練習は、まず中山雄一選手が K-tunes RC F GT3 に乗り込んで持ち込みのセットア
ップを確認する。1 周を走行してピットに戻ってマシンの確認を受けると連続周回を行なう。計測 7
周目にはラップタイムを 1 分 19 秒台に入れて、この時点で GT300 クラスのベストタイムを記録。



中山選手は好調さを示したまま周回を続けて、17 周を
走行して新田守男選手に交代する。このころになると
サーキットを雨雲が覆い小雨が降り出す。それでも新
田選手はスリックタイヤで走行を続けて、想定してい
た公式練習でのメニューを消化していく。雨量が増え
てきたためピットに入ると、若干のセットアップを変
更した後に中山選手が K-tunes RC F GT3 のステアリ
ングを握る。

Qualifying Day

1時間45分の公式練習はドライからウエットに変化するコンディションとなったが、中山選手が前半にマークした1分19秒013がベストタイムとなりGT300クラスの28台中3番手で終わることになった。

<予選>

午前中の公式練習ではウエットコンディションに見舞われたがお昼を過ぎると雨は止み、次第にコースは乾いていく。GT300クラスの予選が始まるころには、ほぼドライコンディションとなり全車がスリックタイヤでアタックを実施する。

今シーズンから予選アタック中に混雑が予想されるコース全長の短いサーキットでは、予選Q1に出走するマシンが2組に別けられて争うという規則が追加された。この新たな規則が、スポーツランドSUGOの予選で初めて適用されることとなった。

GT300クラスの28台は14台ずつに別けられ、K-tunes RC F GT3は2組目のグループBに振り分けられた。予選Q1は新田選手が担当しコースイン。すると、直後に22号車のAMG GT3がクラッシュしたため、赤旗が提示されて予選は中断する。約20分の中断を経て予選は残り9分で再開。新田選手は、インラップを含めて2周に渡ってウォームアップを行ない3周目からアタックする。まずは1分25秒台をマークし、翌周には1分20秒101を記録するが、公式練習のパフォーマンスが影を潜めてしまう。5周目、6周目も連続してアタックを取行するが、予選Q1を突破できる上位7台に入ることができない。9分が経過した最終周もタイムアップを狙って走行いたが1分20秒070をマークするに留まり、予選Q1のグループBで12番手となった。結果として明日の決勝レースは24番グリッドからスタートすることになる。

公式練習の好調な状況とは打って変わって、予選はパフォーマンスを発揮できずに終わってしまった。決勝レースは後方からの追い上げとなるが、荒れたレースが多いスポーツランドSUGOラウンドなので一台でも多くのクルマをパスしてポイント圏内を目指す。



Team Comment



Director : 影山 正彦

コンディションが変化するなかでの公式練習でしたが、ドライもウエットも順調に走行を重ねることができました。予選 Q1 をスタートするころには路面が乾いてきて、気温や路面温度も上がりました。この状況に対してクルマを合わせることができなかつたのか、24 位という結果は残念でした。なぜ、公式練習のパフォーマンスが発揮できなかったのかを究明する必要があります。菅生の決勝レースは、セーフティカーが入ったり荒れることが多いです。300km と距離は短いですが、展開次第では挽回できるはずなので、少しでも上位を狙っていきます。



Driver : 新田 守男

公式練習では中山選手が最初に乗って、ドライからレインに変わる状況でステアリングを握りました。どちらの状態でもバランスが良く、悪くないセットアップでした。しかし、予選 Q1 ではドライとなった路面コンディションに合わなかつたのかタイムが伸びず、ミスなく走ったのですが予選 Q1 を突破するタイムを上回ることができませんでした。なぜタイムが伸びなかつたのかをチームとのミーティングで検証して、決勝レースに臨みたいです。明日は 24 番手と厳しい位置からのスタートですが、一台でも多くのマシンをパスしていきたいです。



Driver : 中山 雄一

公式練習では、路面が乾いていた最初と最後にウエットコンディションでも乗りました。路面自体のグリップは低かったですが、タイムを見てもわかるように感触は良かったです。タイヤの温まりも良く、連続周回したときのラップタイムも満足いくものでした。予選 Q1 では、公式練習の状態が維持できなかつたようで残念です。原因を突き止めて、明日の決勝レースは状況が改善していることを願っています。



ktunes
RACING

● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA